

「書道と英語」先生の一言が海外へのキッカケに

日本・熊本県出身
経営者の父、主婦の母、兄・妹の3兄妹

市営団地にすら住めない経済状況で、荒々しい言葉や暴力を振るわれることもあった中で、祖父が経営する会社が危機に陥り父が経営を担うことになった。

決して裕福とは言えない幼少期の生活だったが、5歳からやっていた書道が特技で、彼女の小学校の夢は「書道教室の先生」になること。

英語は苦手だったが「英語ができるようになったら、あなたの書道は世界で出来るようになるよ」という中学時代の先生の一言が、海外に興味を持ち始めるキッカケになった。

先生からの後押しもあり、地元の英語スピーチコンテストへ出場するチャンスを得た彼女は、県大会まで出場。彼女の中で英語に対する自信を持ち始めるキッカケとなり「英語で書道を教えたい!」という夢が芽生える。

その夢を叶える為に、地元の公立高校の英語コースに進学を決意。周囲にはロサンゼルスの中学校出身の帰国子女や英語に長けた人ばかりの中、日本で書道を教えるのではなく「海外で書道教室をやりたい」と夢が膨らみ始める。

国際交流・ボランティア活動・国際ユース会議 10カ国を訪問した学生時代

「海外で書道教室をやるためにどの大学行けばいいんだろう?」と世界に視野を向け始める。

自ら国際交流会館への営業努力も重ね、国際交流イベントにも参加するキッカケを掴むなど、精力的に活動を始める。

2017年4月、国際色や知性を学べると感じた関西学院大学・国際学部へ入学。

書道部に入部して活動する傍ら、ボランティア活動にも意欲を示し、自ら災害支援センターへ飛び込んで日本赤十字社のボランティア活動などにも参加するようになる。

経験を重ねる中で、震災の経験や、英語でのスピーチの実績を評価され、フィリピンで行われる国際ユース会議に日本代表として選出される。

更に、日本とマレーシアの学生国際交流の場で通訳として参加や、中国語で通訳をするなどの活躍の場が広がり始める。
その他、語学研修・留学などでオーストラリア・アメリカ・中国など、合わせて10カ国を訪問。

「部員が夢を達成させてくれた！」

様々な活動をする中で、彼女が立ち上げた広報部宛に、大手旅行会社からホノルルフェスティバルでパフォーマンスの提案が届いた。部内で行っていたSNSなどの発信がキッカケとなり、海外での初舞台が決定した。

夢だった「海外×書道」への道が生まれ、ハワイ・ホノルルで袴を着て大きな筆を持ちながらの書道パフォーマンスを実施。

初めは人数が集まらず諦めかけたが、やりたいと言ってくれた部員のおかげで頑張れた。
私が夢を達成したというより、「部員が夢を達成させてくれた。」と振り返る。

学生起業！「母のような母になりたい！」

就活時期も近づき「どんな大人、どんな女性になりたいか？」と考えた時に、学校行事や部活など、いつも送り迎えをしてくれて、常に応援してくれた両親の元で育った彼女の心には、「いつか自分が母親になった時、母と同じように子供に接してあげたい」**「母親のような母親になりたい」**という想いがあった。

しかし、就職してしまうと、理想とするライフスタイルから離れてしまう…。

国内の大手商社への就職を思い描いていたが、**自分で物・事・時間をコントロール出来るようになって理想とする母親像に近づけるように、と大学在学中に起業を志す。**

そして、時代はコロナ禍で世界的にも不安定な状況が続く中だったが、親や先生の反対を振り切って学生起業。

コロナ禍ということもあり、大学在学中に趣味から始めたフラワーアレンジメントのノウハウをオンラインで提供する「オンライン専門フラワーアレンジメント教室」を始めた。

「自分で生きていくんだ！」

初めて親の期待を裏切り、親や先生から褒められることから**「私はこちらだ！」**という意志を貫いた。そこで初めて彼女の中に**「これからは自分で生きていくんだ」**という覚悟が芽生えた。

起業当初は、節約の為に、時には100円だけ払ってマクドナルドに閉じこもり、時には往復360円の電車代を惜しみながら2駅隣のミスタードーナツに通ったりする日々。

「もう無理かもしれない...」と思う日も少なくなかった。

しかし、親や先生を押し切って起業を志した手前、「やるしかない」「起業してよかった」と、自分を納得させたい気持ちと、「就職しておけば良かった...」という後悔を残したくない思いから、とにかく、がむしゃらに仕事をした。数ヶ月で月商50万円まで到達するまでに成長した。

プロジェクトへ出資「カンボジアに雇用と教育を」

連日フル稼働。必死に売上を追いかけて来た中で、一人でビジネスを行う段階から次なる展開を模索していた頃に、学生時代から興味があった国の一つである、カンボジアの不動産に関するプロジェクトと出会う。

カンボジアの人達に日本の技術を教えながら、現地で雇用も生まれる「雇用と教育が循環する現場作り」「カンボジアに雇用と教育を」というビジョンに、彼女は心が動かされた。

「カンボジアの人々の手に職をつける機会と雇用を生む」「教育できる場所を作っている」という所に共感し、自らプロジェクトへ出資することを決断。

このプロジェクトから、カンボジアとの接点を持つようになった。

「選択肢があるのは幸せなこと」

実際にカンボジアと日本を行き来するようになり衝撃を受けたのは、不動産のことよりも、現地の孤児院にいる子供達の姿だった。

「将来どんなことをやりたいの?」と聞いても「どんな仕事があるのかを知らない」「親に仕送りをするために目の前のお金を稼ぐことに必死」という、カンボジアの子供達。

夢を描けない、夢を追えない姿を目の当たりにしたことで

「自分自身は選択肢のある人生で、良き大人に恵まれてきた人生であったこと」

「教育機会・チャンスを与えてくれる親の元で育ててもらえたこと」

「『これをやりたい!』という選択肢があること自体が幸せなこと」

と気付く、大きなキッカケになった。

さらに、ワーカーは安い賃金での労働を余儀なくされ、搾取されている。決して公平とは言えない富の分配がなされているカンボジアの労働環境を目の当たりにしていた彼女は、次第に

「寄付などでお金を与えるのではなく、手に職をつけて経済的、精神的、社会的に自立させることが、夢を追えない子供たちがいる状況の根本的な解決なる」と確信する。

「ココナッツ矯正」というプロダクトと「melco」という環境

更に彼女の転機となるキッカケが、美容室「melco HairDesign」と「ココナッツ矯正」という世界に誇れる技術との出会いだ。

「melco」

日本国内でココナッツ矯正を提供している美容室「melco HairDesign」は低賃金で離職者も多い美容室が多い中で、高い歩合率を設定し、努力が報酬として反映され、報われる。人が辞めない労働環境を確率している。

「ココナッツ矯正」

ココナッツオイルやグレープシードオイル、オリーブオイルなどの自然由来のオイルを配合した薬剤を使用した世界中の全人種に適応できる技術で、特殊なアイロン技術で髪の毛の内部に浸透させることで、サラサラで艶のある髪に仕上げることができる。

朝起きた瞬間からストレスフリーで美しい髪。セットする時間も短縮され、この髪質を手に入れると、女性の自身の自己肯定感が上がり、そして内面から自信が湧いてくる唯一無二の縮毛矯正技術。

女性にとって命とも言われる髪だが、ココナッツ矯正を行うと髪質そのものを改善して仕上げるから、一度この髪質を手に入れるとやめられなくなるそう。

「これが世界中に広がれば良い！」

現在、日本の沖縄と東京で店舗を展開しているmelcoは、2024年で10年目を迎えた大人気の美容室である。

年間4000件の施術件数を超え、世界一と言われている。圧倒的な技術力で広告宣伝費を一度もかけることなく、リピーターと口コミだけで連日満席になる。

彼女自身も、melcoのココナッツ矯正に出会うまで、乾燥しやすい髪質で「髪が綺麗」だなんて言われたことなかったが、ついつい「私の髪ってこんなに綺麗だったかしら？」とってしまう自身の顧客体験からも

「このココナッツ矯正はとてもシンプルなプロダクトであり、女性は美しい髪を手に入れ、働く人も豊かになる。シンプルに、これが世界中に広がれば良いと思う！」

そんな想いが、彼女の中に芽生えた。

彼女にとって「世界に広めたい」と思えるプロダクトが見つかった瞬間だった。

「教育と雇用を創出する」 melco 海外進出 1号店をカンボジアへ

日本の沖縄で生まれたココナッツ矯正という技術が、美容技術が発展していないカンボジアから世界に広がり、全世界の女性の髪の悩みを解決する。

これまでのカンボジアでの経験や知見を話し、ビジネスチャンスとしてもポテンシャルを秘めたカンボジアへの海外出店を提案した。

海外進出の道を模索していた創業者との想いとも合致し、「melco」世界展開への第一歩がスタートした。

2024年4月現在はミャンマー、インドネシア、シンガポール、ドバイ、LA、アフリカの出店を目指してリサーチを進めている。

心の柱

2016年4月。高校3年の春。

最大震度6強の地震が2度も襲い、目の前にあった当たり前の生活が一瞬にして変わる衝撃を体験した熊本自身。彼女の価値観が一変する出来事だった。

悲惨な光景が広がる中で、地元で経営者だった父の「スタッフの心の柱でありたい」という姿勢と、「緊急の時こそ、出来ることにフォーカスする平常心」「家族とスタッフを守り抜く覚悟」は、経営者となった彼女にとって、大きな心の柱になっている。

「若い段階でどんな大人に関わるかは、その先の人生に大きく影響します。今、私がミッションに向かい、充実に溢れた日々を過ごすことができている根本にあるのは、「やりたい」と言ったことをやらせてくれた両親からの承認と、無性の愛があったから。そして、これまでの経験の全てが、今の私の思考を作っています。」

そう語る彼女のミッションは「教育と雇用を創出」だ。

melcoのビジネスを展開させることで、働き手が増える。
働き手が増えることで、日本の縮毛矯正で幸せになる女性が増える。
この技術に出会った人はコンプレックスから解放されて幸せになり、とても喜んでくれる。

「この幸せの循環を世界に届けていきたい！」
そんな想いで、彼女は今日も世界を飛び回っている。

やり抜く覚悟と、心から信頼できる最高の仲間が、私を生かしてくれている。

「私に特別な能力やスキルがあるわけじゃない。
でも、幸いなことに、私はたくさんの素晴らしい人々に囲まれている。
だから、どんな挑戦でも乗り越える勇気があるし、どんな困難も乗り越えられると信じていることができる。前に進み続けることができる。」

信じ、支え、背中を押してくれる人たちのおかげ。
皆が私の力になり、強さを与えてくれる。

これまで出会った人への感謝と経験を糧に、Misatoの挑戦はこれからも続く・・・。

編集：関根悠太